葛城・二上山水系にみる古代コスモロジーに関する研究－2

研究年度・期間：平成 14 年度

研究ディレクター：下休場千秋
（環境計画学科 助教授）
共同研究者：井関　和代
（工芸学科 教授）
研究助言者：嶋田　義仁
（名古屋大学 教授）
研究補助者：上羽　陽子
（芸術文化研究科 研究員）

研究経過の概要

前年度より開始した「葛城・二上山水系にみる古代コスモロジーに関する研究」において、古代日本の豪族たちの故地である葛城・二上山水系における稲作灌漑の概要を把握するために、研究メンバーを始めとして、郷土史に造詣の深い地元の方々の参加を得て、藤井寺市、羽曳野市、富田林市、南河内郡太子町、同河南町、同千早赤阪村における灌漑用水路、溜池に関する現地調査に基づく共同研究を行った。

今年度の研究はその研究成果を基礎にして、南河内地域における水をめぐる古代稲作文化に関する地域性をより深く解明することが目的であった。

これまでに、研究メンバーが各々の専門分野における既存文献資料の収集・分析と、現地調査に基づく情報の共有化を図りつつ、以下の研究会を実施した。尚、研究者は研究会の他に、各自のテーマに沿った現地調査も実施した。

第 1 回　5／ 1（水）　研究方針と研究分担、今後の研究会についての打合せ会合。
第 2 回　7／20（土）　竹内街道歴史資料館訪問、太子町の現地調査。
第 3 回　7／28（日）　太子町内、科長神社の夏祭り、現地調査。
第 4 回　9／ 7（土）　太子町、河南町、千早赤阪村における灌漑用水の現地調査。
第 5 回　11／ 9（日）　本年度に実施した現地調査結果の整理、及び研究発表会の打合せ。
第 6 回　1／21（火）　第 32 回教員研究発表会「葛城・二上山水系にみる古代コスモロジー」の実施。
第 7 回　2／23（日）　河内郷土史家（元本学・非常勤講師）の古田実氏の案内・解説による「古市大溝及び関連する灌漑用水路」の現地調査。

以上の研究過程において、石川流域における古代から現代に至る灌漑土木事業の痕跡を発見し、それらの事業の主体は誰であったのかについて考察を進めた。さらに、現在も観察することができる神社の祭神、祭礼や河川・灌漑用水路・溜池に関連する造形物などを探ることにより、古代稲作文化の担い手であった当時の人びとの水を通した自然観はどのようなものであったかを把握することに努めた。

研究成果について

今年度における研究の具体的な内容は、石川下流左岸の古市古墳群の地域に焦点をあて、この地域を開発して定住した人びとが、水資源をどのように利用し管理してきたかを把握し、前年度に調査した石川右岸、太子町の梅鉢古墳群における水田開発との比較研究を行うことにより、石川両岸地域の地理的、歴史的な相互関連について考察することであった。

研究ディレクター・下休場は前年度に引き続き、地形、水系、土地利用といった環境面から分析を進めた。研究メンバーの井関は、河内豪族と彼らの信仰の対象となる神社に関する考察を進めた。研究助言者の嶋田は、「記紀」を中心とする資料と現地調査に基づき、古代豪族の古墳造営や水田開発に果たした役割について考察を行った。

開催された 7 回の研究会を通して、明らかになった諸点は以下の通りである。

① 縄文時代における研究対象地域の地形は、大阪湾が現在の東大阪市や八尾市付近まで入り込み、古市古墳群が位置する地域は大阪湾の沿岸部に近い場所で、古くからヒトが居住するのに適した場所であった（図 1 参照）。

② 古市古墳群一帯は、弥生時代、古墳時代を通して中国大陸や朝鮮半島からの文化的影響を受けたことにより、水田開発や古墳造成を行うだけの社会的基盤が早くから形成された地域であった（図 2 参照）。古市古墳群の造成に係わった天皇家、土師氏、物部氏がこの地域を支配していたと考えられる。

③ 律令国家は国道建設に力を入れ、研究地域においては、難波京と平城京を結ぶ大津道（長尾街道）や飛鳥・藤原京に至る丹比道（竹内街道）がそれぞれ東西に走っていた。物資や情報が流通する当該地域は、古代より勢力拡大を図る有力豪族や天皇家にとって重要な場所を占めていたため、土木技術者、土器作り・鍛冶の工人集団が住み、さらには葛井寺、道明寺を始めとする多くの仏教寺院も建立された。

④ 5 世紀を中心に形成された古市古墳群の中をぬうように、日本書記に記述されている「古市大溝」と呼ばれる幅 20 メートル前後に及ぶ人工水路の痕跡が現在も残っている。農業用水路か運河か、その建設目的は明確になっていないが、石川から水を引き込み、この地域一帯を流下していたことは事実であった。

⑤ 古市古墳群一帯に開発された水田へは、現在に河南橋付近の石川や羽曳野・富田林丘陵の谷筋につくられた溜池から灌漑用水路が引かれた。これらの用水路が一カ所に集中し、下流への水を配分する場所が、現在の羽曳野市水守地区の近くにある「カンコ田」と呼ばれる所である。

⑥ 都市化が進み土地利用は大きく変容しているが、古墳、遺跡、神社、用水路、溜池など、古代より当該地域を開発し支配した人びとの水に関係する文化遺産を、現地調査において観察した。前年度の主要な調査地であった蘇我氏と関係の深い敏達天皇を始めとする天皇陵が造成された太子町よりも古くから、水田や灌漑用水路の開発が行われた地域であることを確認することができた。

研究の反省

石川流域に古代から居住した人々の水に関するコスモロジーを探るための調査研究を2年間にわたって行ってきた。その過程において、現在の風景の中に、千数百年以上もさかのぼることができる人びとの興味探い生活文化の痕跡を見いだせることに驚きを隠しえない。しかし、研究の目的である「古代稲作文化のコスモロジー」を明らかにするためには、多くの疑問点が存在している。でき得れば、次年度において、さらなる詳細な調査と地域間での比較研究を進めてゆきたいと考えている。（下休場千秋記）

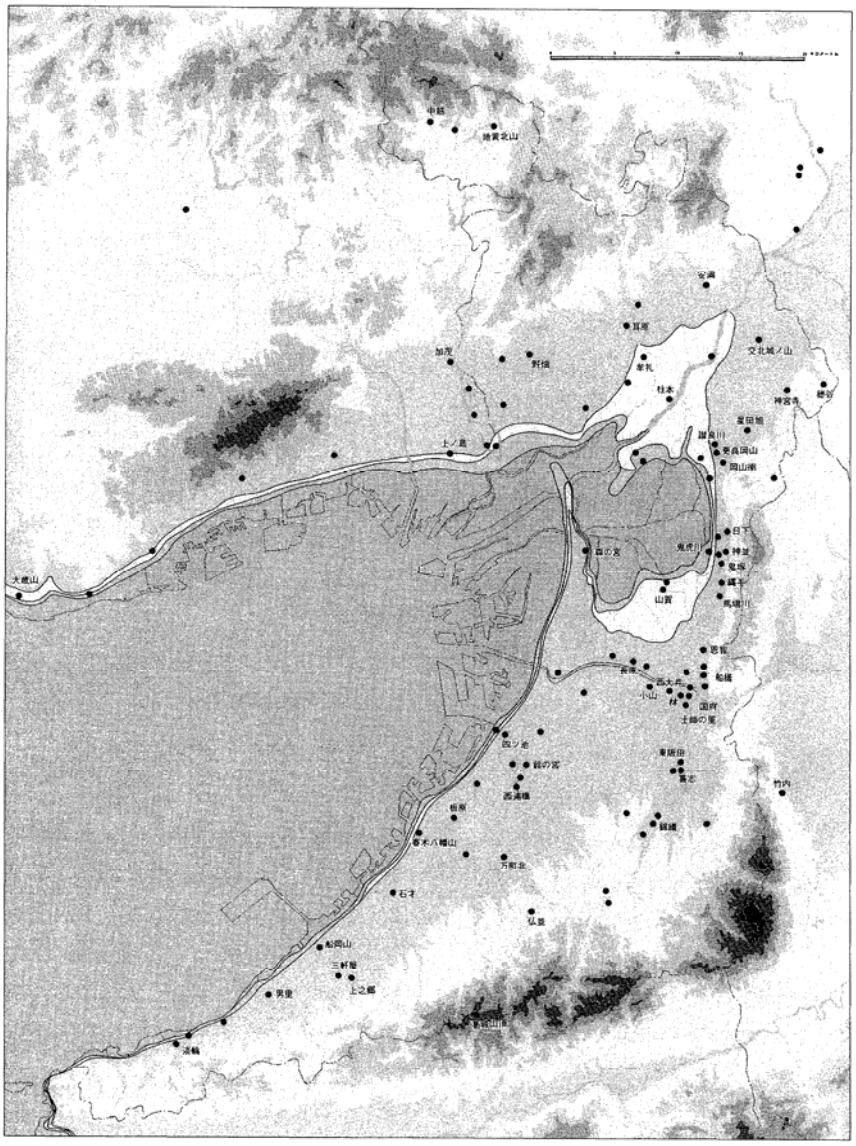

図1　大阪周辺の縄紋時代遺跡の分布図

引用文献：『探検 石器時代』藤井寺市教育委員会事務局　平成7年3月31日

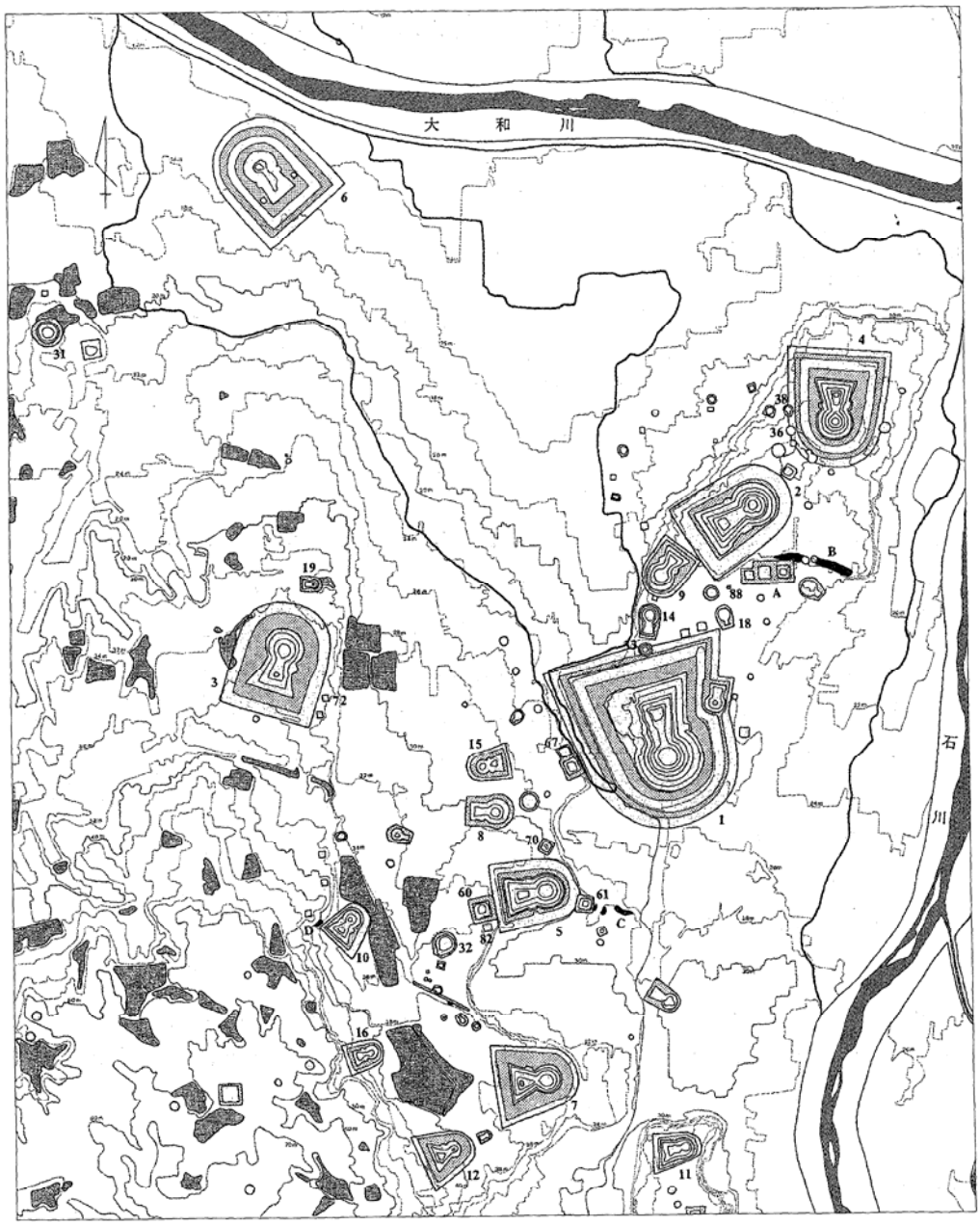

図２　古市古墳群分布図

1.誉田御廟山　2.仲津山　3.岡ミサンザイ　4.市野山　5.基山　6.津堂城山　7.軽里大塚
8.野山宮山　9.古室山　10.ボケ山　11.高屋城山　12.白髪山　14.大鳥塚　15.はざみ山　16.峯ヶ塚
18.盾塚　19.鉢塚　31.島泉丸山　32.青山　33.誉田丸山　36.長持山　38.赤子塚　60.浄元寺山
61.向墓　67.アリ山　70.野中　72.岡　82.西基山　88.土師の里８号墳
A.三ッ塚（63，64，71）　B.土師の里埴輪窯跡群　C.誉田白鳥埴輪窯跡群　D.野々上埴輪窯跡群

引用文献：『探検　巨大古墳の時代』藤井寺市教育委員会事務局　平成 10 年 3 月 31 日